



Challenge 21



12年ぶりにラーメンを旨いと思えましたよ



By ふちんかん

鍵っ子で家に帰ると誰もいない、腹が減ったらカップラーメンかチキンラーメン、という子供時代を過ごしたせいでしょうか、どうもラーメンというのは腹を満たすものであって、味わうものではないというイメージがあったんですよ。(中略) 社会人になって外食の機会も増え、ラーメンを食べることも増えたわけですが、旨いと思ったことはなかったですよ。天下一品(特にこってり)などは好きなんですけど、あれは美食欲とはちょっとベクトルの違う欲求を満たすって感じがしますな。TVで行列のできるラーメン店ってなものを見ても、「たかがラーメンに並んで急かされて高い金払うなんてアホちゃうか」って思っていましたよ。それがですよ、このあいだ生まれて初めてラーメンが旨いと思ったんですよ。(中略) そのお店が「山桜桃」なんです。…

(http://www.ma-2.com/oh_woo/syuzai/200402-yusura.pdf)

と、なんばパークスめんだらけ内の「山桜桃」を紹介してから12年。WOOの取材で久々においしいラーメンに出会いましたよ。それが今回紹介する「ばり馬」です。(ちなみにのれんや看板には「馬」という漢字が使われていますが、フォントによっては表示できないようでHPでは「馬」が使われていますな)

まずは和歌山駅の観光案内所でもらった和歌山ラーメン・中華そばマップを全員で精査しましたよ。和歌山ラーメンというのはざっくり言うと豚骨醤油ラーメンです。wikiによりますと醤油ベースか豚骨ベースかによって大きく二分されるようです。醤油ベースが基本なのですが、豚骨ベースの井出商店が有名になってから和歌山ラーメンが全国的に認知されたとのことですよ。

で、今回はこってり系が好きな私の要望と、せっかく車取材なのだから車でしか行けないような店をチョイスということになりまして、郊外の「ばり馬」に行くことになったんですわ。

和歌山駅から車を走らせること5分あまり、最近よく郊外で見かける大型駐車場の一角にプレハブの建物、大きな看板という店舗スタイルでした。お店に着いたら当然のごとく順番待ちになっていまして、10分くらい待ったでしょうか、写真を撮ったりしてたらあっという間でしたよ。

このお店は中国地方からスタートした豚骨ベースのラーメンらしく「新・和歌山ラーメン」を名乗っています。なるほど一般の和歌山ラーメンのお店とは違い、テーブルの上に柿の葉寿司のような早寿司やゆで卵がありませんね。普通のラーメンチェーン店のたたずまいです。



メニュー的は「**ばり嗎**」と「**ばり濃**」この2品がベースとなります。



スープの方は「**ばり嗎**」には「味噌」「醤油」、「**ばり濃**」には「濃辛」「濃塩」「極濃」というバリエーションがあります。またチャーシューや味玉のトッピングを選んだり、和歌山ラーメンでは珍しい替え玉というオプションもあるわけなんです。

さていよいよ注文です。「**ばり濃**」は当然として、「炙りチャーシュー2倍・背脂3杯！油の苦手な方はご遠慮ください」という注意書きがある「極濃」にするか激しく悩みましたよ。さらに大盛りや替え玉というこれまでなら当然チョイスしてきたオーダーをどうするか、こちらもぎりぎりまで悩みました。しかし、ですよ。私も今年50歳を越え、このあとマリーナシティで海鮮丼を食べるという予定を前にして、ようやく人並みの判断といいますか、良識というのでしょうか、大艦巨砲主義に走る本能を抑え、「**ばり濃味玉**」単品のみというシンプルなオーダーにすることができました。私にとっては大いなる成長です。でも一方で、もう若くないさときみに言い訳したね～のような少し寂しい気分にもなりました。



待つこと10分いよいよご対面です。「美しい」と思ったのは12年前の「山桜桃」同様です。このとき写真を撮ろうとスマホのカメラを起動したのですが、それまでの暑さのためかバグっています。再起動して撮影しようとしたのですが、情けないことに**待つことができずに**食べてしまいました。食べ始めたら、もうイッキ…。左の写真は.comさんが撮影してくれていたものです。この写真がなかったら、食べ終わった後のどんぶりの写真しかないところでした(てへ)。

味の方は期待通り、いや期待以上のものでしたよ。しっかりした「こってり」の味わいの中、色々な具材の味がぎりぎりの自己主張をしながらも渾然一体、丸く収まっている、まさに「調和」という感じですね。食べながら「麺類の進歩と調和」という言葉が脳内を駆け回り、一人悦に入っていたことを今ここで告白いたしますよ。食べ終わったら大粒の汗をかいていました。大満足いたしました。

GOOD

満点ですよ。隙あらばまた食べに行くことでしょう。



追記 替え玉をしていた.comさんを見て、正直うらやましかったですよ。まだまだ煩惱との戦いは続くようです